

# NEWSLETTER NO.14



**CWS  
JAPAN**

Church World Service

2017年6月発行

## JPFアフガニスタン帰還民支援 プログラム 現地からの声

CWS Japanは2017年3月末からアフガニスタン東部のナンガルハール州にてパキスタン・イランからの帰還民支援を行っています。両国における難民生活が不安定になってきている中、大規模な帰還が進んでおり毎週約1000人規模が国境を超え着の身着のまま母国への帰還を果たしています。収入のない彼らが、帰還後の生活を立て直すには生活必需品の支援が必須です。当団体及び当団体パートナーでは、8月末までを目処に寝具セットの配布や、食料・医薬品・暖房・調理器具等が購入できるようキャッシュ配布を行うことで彼らを支援しています。下の写真は昨年12月に帰還したある女性のご家族が、寝具配布時の受領書にサインする様子です。



彼女には夫と7人の子供がいます。アフガニスタン人である彼女が5歳でパキスタン・ペシャワールにある難民キャンプへ渡ったときに待ち受けていた現実とは、劣悪な居住環境と経済的な理由による早期結婚でした。精神障害を抱える夫の働き口は無く、夫の医療費や生活費を捻出する為レンガ窯で働き始めました。また、彼女の子ども達も小さくしてレンガ窯での仕事を始めたそうです。

レンガ窯での劣悪な労働環境で働く自分の子ども達を見た時には胸がはちきれそうだったと話してくれました。パキスタンで所持していた生活物資を安価で全部売り払いアフガニスタンへの帰還を果たした彼女を待っていたのは無職による貧困や治安の悪化でした。そんな中、人道支援でかろうじて最低限の生活を支えています。私たちはこのJPF助成の緊急支援から、アフガニスタンが今後も直面し続ける問題に迅速に対応できるようモニタリングに努める意向です。  
(文：プログラムオフィサー 阪口 佳恵)

## 早稲田教会花の日礼拝に招かれて

CWS Japanオフィスがある早稲田奉仕園内には教会が2軒あります。そのうちの1軒である日本キリスト教団早稲田教会では、月2回、早稲田奉仕園内に勤務する人々を中心とした正午礼拝が行われるなど、早稲田キリスト村の中心になっています。この度、その早稲田教会より、年に1度の花の日礼拝(6/11)の中で「子ども達のためにお話をして欲しい」という依頼を受けました。CWS Japanでは、大学などから国際協力分野の講義等の依頼を受けてはいましたが、教会の礼拝で、しかも日曜学校に通う子ども達向けの依頼を受けたのは初めてのことでした。子ども向けとは言え、大人との合同礼拝なので、幼児から高齢者まで全年齢層を対象にお話をするという難しさがありました。迷った末、「子どものちから」という題名で、私がこれまで国内外で勤務する中で出会った子ども達の話から始まり、ノーベル平和賞を受賞したパキスタンのマララさん、

平和を求めてTwitterで世界に発信し続けたアレッポの少女やリオの伝説のスピーチで知られるセヴァン・スズキさんなど、勇気ある少女たちのお話を紹介いたしました。それらのお話を通して、「決して無関心でいるのではなく、今何が起きているのか先ずは知ることから始めよう」と呼びかけました。当日、話を聴いてくれた子ども達のうち、一人でも多くの子ども達の心に何かがひっかかってくれることを願っています。

CWS Japanでは、これからも機会があれば教会や学校に出かけ、私たちの活動を通して子ども達が知るきっかけ作りのお手伝いをしたいと考えています。皆さんからのお問い合わせをお待ちしています。

(文：プログラムオフィサー 牧 由希子)



左より：小美野事務局長、ピーター・クリステンセン氏、田中徳雲氏、MIYAVI氏

世界では現在7000万人もの家を追われた方々が居り、地球市民としてどう共存していくのか、隣人として理解し、共に将来を作っていくにはどうしたら良いのか。

また、排他的な事も多々ある日本社会において難民を受け入れる事が意味する事はなど、多くの示唆を学んだイベントでした。モデレーターを務めたセッションにはピーター・クリステンセン氏（カナダ大使館参事官）、田中 徳雲氏（同慶寺 福島県南相馬市 住職）、そしてMIYAVI氏（ソロアーティスト / ギタリスト）という三者三様の方々にお話し頂き、それぞれの体験から日本社会に向けて重要なメッセージを頂きました。CWS Japanでも難民の方々への緊急支援を行っていますが、家を追われるという事はどういう事か、コミュニティを失った時人はどう思うのか、そんな痛みを感じる努力をしながら質の高い支援へ、そして継続的に日本社会へのメッセージを発していきたいと思っています。災害リスクも難民・避難民数も過去最高を更新する中、今まで解決出来ていない問題を解決していくイノベーションが必要です。先日ニュースレターでもお伝えしたATIH（ADRRN Tokyo Innovation Hub）ではアジアにおけるイノベーションを更に促進させる為に6月初旬にジャカルタでワークショップを行いました。こちらの詳細は是非以下を参照して頂ければと思います。

<https://adrrninnovationhub.org/ja/news/46/>

(文：事務局長 小美野 剛)



早稲田教会の主日礼拝は1922年建設のスコットホール（東京都選定歴史的建造物）で守られています。

## 「6/20「世界難民の日」 UNHCR/JPF共催シンポ 『アレッポからニューヨーク、 そして東京へ：共に生きるために』」 第3部モデレーターとして登壇しました

国連大学で開催された上記イベントの第3部「多様性のある社会を作る～共に生きてみたら」というセッションでモデレーターを務めさせて頂きました。